Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

潰瘍性大腸炎患者におけるdysplasiaの経過と発癌に関する検討-厚生労働省研究班分類に基づく検討–

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米澤, 麻利亜 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032600

主 論 文 の 要 旨

潰瘍性大腸炎患者における dysplasia の経過と発癌に関する検討
―厚生労働省研究班分類に基づく検討―

東京女子医科大学消化器内科学教室
（指導：徳重克年教授）
米澤　麻利亜

東京女子医科大学雑誌　第 87 巻　第 4 号　96 頁～107 頁（平成 29 年 8 月 25 日発行）に掲載

【要　旨】

潰瘍性大腸炎(ulcerative colitis:UC)において厚生労働省研究班分類に基づく異型度(dysplasia:UC-I・IIa・IIb・III)による発癌を含む経過を明らかにすることを目的とした。対象は当施設で下部消化管内視鏡検査を施行した UC420 例で、初回生検病理組織の異型度別に臨床像、下部消化管内視鏡所見、発癌率、発癌の危険因子を解析した。また、経過中に UC-III が検出された症例についても検討した。420 例の観察期間中央値は 7 年、内視鏡所見は、異型度が高くなるにつれ隆起型病変の頻度が有意に上昇した。発癌率は、異型度が高くなるにつれ上昇し、特に初回生検で UC-IIa 以上になると UC-I 以下の群と比較し発癌率が有意に上昇した。また、若年発症群と炎症性ポリープを有する群において発癌率が有意に高率であった。経過中に UC-III が検出された 29 例では、うち 8 例が発癌しており、発癌例の UC-IV への観察期間中央値は 2.5 ヶ月であった。Dysplasia の厚労省分類を参考に surveillance colonoscopy による厳重な経過観察をすることが重要である。Colitic cancer の前癌病変として有用な所見である UC-IIa 以上の dysplasia、および若年発症、炎症性ポリープを有する症例では、colitic cancer 発生に注意が必要である。